

---

# 刹那・神咒神威

Acta est Fabula

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

刹那・神咒神威

### 【NZコード】

N9829Y

### 【作者名】

Acta est Fabula

### 【あらすじ】

次代を担うものが現れてくれた。「俺の役目も終わった」これは一人の男のもじも、そして、刹那の物語である。

## プロローグ（前書き）

すみません、半年以上ぶりです。性懲りも無く二作目、こんななん書きくらいなら続きかけと言つてくるかもしませんが・・・本当にすみません一作目と二作目の書いていた話が五月くらいにパソコンが壊れたことによりすべてのデータが消えました。

そして今月まで仕事の都合により書くことが出来ませんでした。なので申し訳ないと思いますが、一作目と二作目を削除してこの話ひとつでやっていこうと思います。

未知なる結末と東方殺人伝を楽しみにしていた読者にお詫びします。

## プロローグ

「…………」

男はこれから起きるであろうことに思いをはせ笑っていた。自分たちの後をついて行く者たちが現れてくれたこと、自分が倒された後に起ころるであろう次代を担うものたちの戦い、そして・・・

「・・・滑稽だな第六天」

自分たちが・・・

「貴様は負ける！！」

勝利したこと」。

「俺たちの勝ちだあああーー！」

男は漂つていた暗い空間を、体は少しづつ粒子となつて消えていく。だがそれに恐怖は無かつた。次代を担つものが現れ自分たちの意思を継ぎ、自分たちに勝利したから。

「コレで俺の役目も終わりか・・・。」

男は空間に身を任せ呟いた。

「・・・君が居なくなつてから長い時が過ぎてしまつたよ。」

「・・・なあ聞いてくれ、やつと俺たちの意思をついでくれるやつらがあらわれたんだ。あいつらがきつと俺たちが守つてきた黄昏よりもいい世界にしてくれるはずだから。」

「きつと俺だけじゃ駄目だつたろうな・・・あいつらが居たから俺はここまでやることができたんだ」

男は自嘲ぎみに笑いながら答えた。

「司郎、戒、櫻井、ベアトリス、リザさん、ルサルカ、ミハエル、・・・そして先輩・・・」

「戒も櫻井も真面目すぎたさあ、あいつらを殺したつて言ったとき若干焦つてたんだ俺。しかもその後の戦いも殺す勢いで戦つてたし。リザさんとルサルカはなにもしなくて傍観してるのが多かつたようなきがする。先輩にいたつては俺に座を取れつて言ってくるし・・・」

「

「ミハエルはミハエルでどこかに引きこもつてゐるし、司郎にいたつてはそれが必要だつてのは分かるけど……場を引っ搔き回しそぎだらうが！……あれ絶対自分が楽しんでたるうが！！」

男は声を張り上げる、頭の中に悪友を思い浮かべたら馬鹿笑いしてた。・・・・・ムカつく。

「・・・・でも本当にあいつに感謝してると誇りに思つてゐんだ・・・・・」

男は仲間達の顔を一人づつ思い浮かべていた。消して忘れないように、自分の魂に刻むように。

「もし・・・・」

「もし次があるのならまたみんなで・・・・・」

あの消えていつた黄昏の刹那を味わおつ・・・・・

「うん、そうだね

「・・・・・」

男はそれが幻聴だとわかっていた。自分たちが守つていた黄昏の女神はもう居ない、今の座に座るやつに殺されたから・・・・でも・・・・

「・・・・ああ、そうだね。」

男にはその声が幻聴ではなく自分の最後に彼女が答えてくれた最後の言葉だとそう信じることにした。

だから最後に男は彼女に最後にある言葉を伝えた・・・

「時よ止まれ・・・君は美しいから・・・」

そつづぶやくと男は粒子となつてこの暗闇の空間から消えていった。

こうして夜都賀波岐首領、天魔・夜刀は次代の者たちに意思を託し  
この舞台から退場していく・・・

だが、彼の物語はまだ終わつていなかつた・・・

今から始まる物語は彼の話・・・

さあ、今から刹那の物語を始めよつ・・・

この物語に脚本家はいない・・・

すべては、この物語に参加する役者しだい・・・

## プロローグ（後書き）

はい、主人公は蓮炭です。神咒神威神楽ではこいつが主人公だと  
思うほどのかっこよさでした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9829y/>

---

刹那・神咒神威

2011年11月29日19時50分発行